



タレントの堀ちえみさんが舌がんを公表したことで、「口腔がん」の関心が高まっている。口腔内炎や口の中にできた病変が「がんではないかと」、歯科医院を受診する人が急増しているのだ。

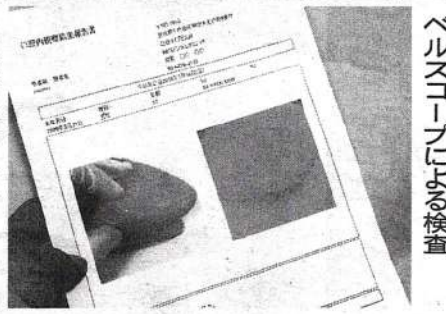
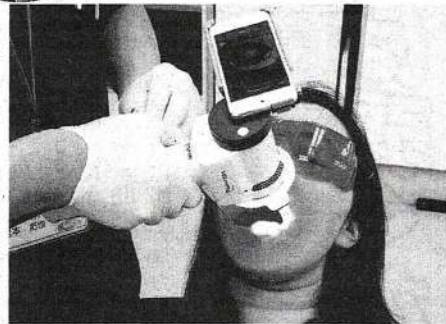
しかし、病変を自覚できるころには、がんがある程度進行している場合が多い。「ベルスコープ」は国内で発売されている4種類の「口腔蛍光観察装置」の1つで、口腔粘膜内の異常を早期に検出できる診断補助機器。口腔がん検診にベルスコープを用いた口腔内観察を取り入

## ベルスコープ



「幸町歯科口腔外科医院」(埼玉県志木市)の宮本日出院長「顔写真」は、その有用性をこう話す。

「ベルスコープでは口腔内に青色光を照射して、通常なら肉眼では判別できない口腔粘膜の



ベルスコープによる検査

**【検査費用は?】**自由診療で施設によって異なる。幸町歯科口腔外科医院の場合、ベルスコープを含めた「口腔がん検診」は8000円(税抜)から。事前に電話予約が必要。

# 口腔がんなど異常を早期に検出

異常を観察することができ、ウイルスや細菌の感染症、さまざま炎症(口内炎、外傷、アレルギーなど)、血管腫、一部の良性腫瘍なども検出する。つまり、「がんの疑い」を早期に発見する」1つの手がかりになるわけだ。

ベルスコープは青色光を放つ

同院の口腔がん検診では、①問診②視診と触診③顎全体のレントゲン検査④ベルスコープによる観察⑤擦過細胞診(綿棒で粘膜組織を採取)⑥検査結果のカウンセリングが行われる。そして、がんが疑われる場合、実際にがん治療を行う大病院

「先進国の中で口腔がんの死亡数が増加しているのは日本だけです。治らない口内炎、痛くない口内炎などはがんの疑いがありますが、最も重要なのは症状のないうちから定期的に口腔がん検診を受けることです」

従来、口腔がんは50歳以上に多かったが、近年では小児の発症も増えてきているという。

(新井貴) 〓おわり

ライトの裏側に専用のスマホを装着し、口腔内の画像を記録することができる。粘膜に異常があった場合、画面にどのように写るのか。

「照射する青色光は400、460ナノメートルの波長の光で、粘膜が正常なら蛍光可視が保たれて口腔内は青緑色で写ります。それに対して粘膜内に異常があると、蛍光可視が低下(青色光が吸収)して異常な部分は黒く写し出されます」

また、ベルスコープの所見で判断に迷う場合は、提携するがん治療施設とネットで画像を共有し、セカンドオピニオンが得られる体制(オーラルナビシテム)が整えられているという。